

# 事業の概要

## 1 常設展示

### 常設展示を構成する資料

(昭和62年度中展示延点数)

区 分	実物資料 及び標本類	ジオラマ機器 模 型 類	カラー透視写 真及び写真	図 板	計
地 学	519 点	26 点	10 点	39 点	594 点
生 物	822	78	34	30	964
歴 史・民 俗	693	32	65	67	857
美 術	618	—	—	6	624
合 計	2,652	136	109	142	3,039

#### (1) 地学生物展示室 (515㎡)

従来の標本の分類を中心とした静的な展示に、生態的・動的要素を加えて、いっそう分かりやすい展示となるよう展示改善を行った。

##### 〈地 学〉

- 本県の地形と地質の全貌と特徴を各種の模型で展示。
- 郷土の生いたちについて岩石や化石などによって解説。
- 本県及びその周辺で産出した化石と各地質時代の化石（三葉虫、アンモナイト、タルボサウルスほか）。特に、ナウマンゾウの全身骨格（模型）とゾウの進化に関するコーナーを設置。
- 古生物を中心にした各地質時代の景観復元ジオラマ7景。
- 鉱物の特性を結晶系と化学組成分類にて解説、また県内外の有用鉱物を鉱床と関連づけて展示。
- 温泉の地下地質と湧出する機構を示す模型の展示。
- 紫外線の照射による蛍光鉱物の発光実験。
- 各種ウラン鉱物の展示と放射能測定の実験。
- 砂丘と大山の地質的特徴とその生成発達を解説展示。

##### 〈生 物〉

- 大山と砂丘の生物の垂直分布や水平分布の状態とその特性を解説展示。
- 岩礁の生物の生態と分布を解説展示(ジオラマ)。
- 中国山地の代表的な植生景観と動物の生態展示（ジオラマ）。
- 頭足類、甲殻類、魚類の分布解説と分類展示。
- オオサンショウウオの卵から成体までの発育過程と飼育展示。
- 水生小動物の飼育展示。
- 鳥類の生息環境による分類と生態を解説展示。
- 県内産の鳥獣の展示。
- 貝類の生息環境による分類展示。特に、海産は南方・北方などの海域別に展示、ほかに陸産、淡水産の展示。

- 昆虫の分類展示（チョウ、ガ、甲虫、セミ、トンボ、ハチ、バッタ類など。）
- 植物の分類展示（樹幹、およびキノコ）。郷土の植物を解説展示。
- 動物の行動や植物の生育環境等をレーザーディスクによって解説。

## (2) 歴史民俗展示室（515㎡）

### 〈狩猟から農耕へ〉

- 縄文時代の遺物（土器、石器、骨角器）と生活の解説展示。
- 弥生時代の遺物（青銅器、土器、石器）及び文化交流などの解説展示。

### 〈古墳とその時代〉

- 古郡家一号墳をはじめとする古墳の一括資料の解説展示。
- 古墳時代の生活用具の復元展示（かまど三点セットなど）。
- 県内出土の須恵器の分類展示。
- 県内出土の代表的なはにわ（鹿、家、水鳥など）の展示。
- 銅鏡、各種玉類、武具、馬具などの展示。
- 梶山古墳彩色壁画のカラー写真パネルと出土遺物の展示。

### 〈奈良・平安の因伯〉

- 古麿寺出土の軒丸瓦、仏足、瓦経などの展示。
- 伯耆国分寺跡出土の風鐸の展示。
- 経筒等経塚出土品の展示。
- 国宝三徳山三仏寺投入堂模型（10分の1）。
- 因幡国庁出土の墨書土器緑釉陶器等の展示。
- 平城宮出土の木簡（レプリカ）の展示。
- 伊福部徳足比売骨蔵器（レプリカ）の展示。
- 時範記（複製）等の展示。

### 〈戦乱の時代〉

- 因伯の荘園と武士団の分布図及び伯耆国河村郡東郷庄下地中分図（模写）の展示。
- 中世遺跡出土、鰐口、青磁小壺、白磁五輪花皿、青磁香炉、青磁盤の展示。
- 新興寺文書及び伝名和長年像の展示。
- 二上城及び布施天神山城出土の陶磁器片の展示。
- 梵鐘二口（麿阿代寺、国英神社）の展示。

### 〈土農工商の社会〉

- 鳥取城模型・鳥取城下図（模写）・鳥取城瓦など、鳥取城関係の展示。
- 池田光仲肖像・書画をはじめ鳥取池田家の解説展示。
- 鳥取を代表する歌人香川景樹の肖像・短冊の展示。
- 検地帳や宗門改帳、町奉行日記や町年寄日記など江戸時代の農村と都市について展示。
- 鳥取藩の藩札と近世の貨幣などを展示。

### 〈因州藩から鳥取県へ〉

- 最後の藩主池田慶徳・初代県令河田景与の肖像写真パネル。
- 藩から県に移行する時期の行政の日記の変化を展示。

### 〈生活の中の道具〉

- 江戸時代末期から明治時代にかけて分布した広間型農家の一部を復元し、生活用具を配して

展示。

- 稲作農具を稲作作業の進行にしたがって展示。
- 伯州綿から浜がすり製品まで、生産工程順にかすり織り用具を展示。
- 日用品、交易、化粧、食器その他の日用品の分類展示。
- 行器（ほかい）、婚礼に使用された各種のつものたるなどの展示。

〈伝え継ぐ心〉

- 年中行事、県内の代表的な民俗行事を季節により写真と資料によって解説展示。
- 芸能娯楽用具として、人形芝居、きりん獅子、郷土玩具などを解説展示。
- とんどう、双盤念仏、綱引き、亥の子などの民俗行事をVTRによって動態的に展示。

〈歴史の窓〉

- 四隅突出型墳墓 62年4月20日～7月31日
- 魂のゆくえ（精霊船） 62年8月1日～9月24日
- 日本最初のマラソンチャンピオン綾木長之助 62年9月25日～11月3日
- 池田慶徳の書 62年11月4日～12月26日
- 正月の遊びと娯楽 63年1月5日～2月1日
- 沖守固関係資料 63年2月2日～3月31日

(3) 美術展示室 (260㎡)

- 平安時代から室町時代の国・県指定の仏像・仏画を展示。
- 江戸時代の鳥取藩絵師等の掛軸・屏風及び本県出身作家の作品を展示。
- 本県出身の彫刻家の作品をロビー等に展示。

主な展示資料 ◎重要文化財 △重要美術品 ○保護文化財

〈仏像・仏画等〉

○大日如来坐像（木造）	若桜町永福寺蔵	釈迦十羅刹女図（絹本）	智頭町豊乗寺蔵
○木喰稻荷像（木造）	倉吉市円谷地区蔵	蔵王権現立像（木造）	岩美町観照院蔵
○釈迦十六善神図（絹本）	用瀬町大安興寺蔵	毘沙門天立像（木造）	個人蔵
涅槃図（絹本）	西伯町宝禅寺像	○両界曼荼羅図（絹本）	智頭町豊乗寺蔵
涅槃図（絹本）	鳥取市興禅寺蔵	○不動明王図	智頭町豊乗寺蔵
涅槃図（絹本）	智頭町豊乗寺蔵	不動明王図	当館蔵
○木造狛犬	三朝町湯谷地区蔵		

〈工芸〉

密教法具	当館蔵	○飾太刀	鳥取市樗谿神社蔵
備前焼壺	個人蔵	懸仏	個人蔵
○染織布	鹿野町讓伝寺蔵	染の型紙	個人蔵
○擬宝珠（二口）	関金町地藏院蔵		

〈近世絵画〉

牡丹猫図	土方稻嶺	個人蔵	小松引図	根本幽峨	個人蔵
山水画賛	土方撲斎	個人蔵	猿鹿図屏風	土方稻嶺	個人蔵
千匹鯉図	黒田稻臯	個人蔵	芦間潜鯉	土方稻嶺	個人蔵
群鯉図	黒田稻臯	当館蔵	琴棋書画之図	根本幽峨	個人蔵
○群鯉遊泳図	黒田稻臯	当館蔵	桜閣山水図屏風	根本幽峨	個人蔵

東海道道中図	島田元旦	個人	蔵	青緑山水図	島田元旦	個人	蔵
花鳥図屏風	島田元旦	個人	蔵	東海道道中図屏風	島田元旦	個人	蔵
秋景山水図	島田元旦	当館	蔵	舟曳図屏風	沖一峨	個人	蔵
○雲龍図	土方稲嶺	当館	蔵	米法山水金剛図	牧野芝石	当館	蔵
花下麝香猫図	土方稲嶺	個人	蔵	鹿野城酒宴図	牧野芝石	当館	蔵
滝に鳩図	土方稲嶺	個人	蔵	山水図	建部樸斎	当館	蔵
花鳥之図	島田元旦	個人	蔵	秋景山水図	正崎適処	個人	蔵
月夜訪孔明図	島田元旦	個人	蔵	龍虎図屏風	狩野山雪	個人	蔵
山水花鳥図屏風	根本雪峨	当館	蔵				

〈近代彫刻〉

つどい	長谷川塊記	当館	蔵	非化Q	辻晉堂	個人	蔵
裸	早川巍一郎	当館	蔵	寒山	辻晉堂	個人	蔵
寒拾	辻晉堂	個人	蔵	拾得	辻晉堂	当館	蔵
鵝と女	辻晉堂	個人	蔵	婦人像	辻晉堂	個人	蔵

〈特別陳列〉

ア 拵（こしらえ）の美—近世の刀装—

会期 昭和62年7月21日(火)～8月16日(日)

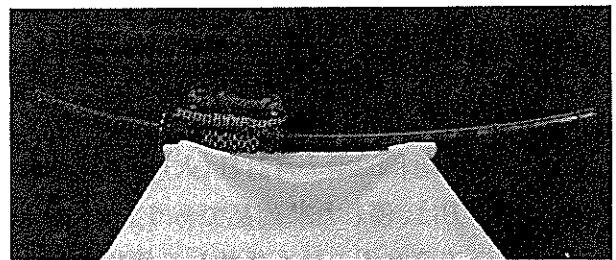
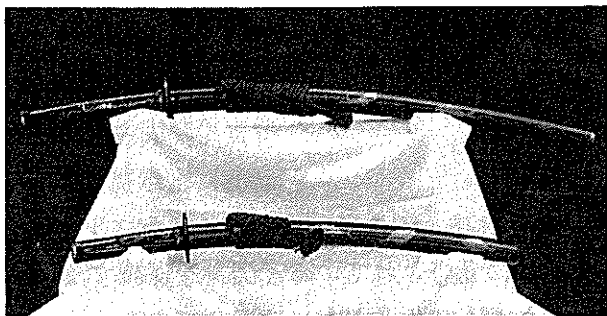
日本刀は、優れた芸術品であり、古くから多くの人々に愛好されている。刀身を保護する刀装具は、工芸美術の粋を集約し、武将の好みを反映しながら時代とともに変遷してきた。

この展覧会では、鎌倉時代から近世へかけての刀装具と、因幡地方特有の因幡拵などを展示し、刀装の美しさを紹介した。

出品目録

番号	品名	時代	所蔵
1	朱潤塗鞘合口拵	現代	日本美術刀剣保存協会
2	黒蠟塗合口拵	江戸時代	
3	黒塗金砂子桜草押鞘合口拵	江戸時代	
4	黒笛巻鞘脇差拵	江戸時代	
5	茶変塗鞘合口拵	安土桃山時代	
6	金梨地菊唐草蒔絵鞘打刀拵	現代	
7	金梨地鞘打刀拵	江戸時代	
8	革巻黒塗鞘太刀拵	安土桃山時代	
9	金梨地桐紋蒔絵鞘糸巻太刀拵	江戸時代	
10	金梨地菊桐紋散鞘糸巻太刀拵	江戸時代	
11	青貝微塵塗九曜紋蒔絵鞘大太刀拵	江戸時代	
12	菊花銀作兵庫鎖太刀拵	江戸時代	
13	儀仗剣形三葉葵紋金作衛府太刀拵	江戸時代	
14	黒塗小刻鞘大小拵	江戸時代	
15	茶塗刻魚尽蒔絵鞘大小拵	江戸時代	
16	茶潤塗鞘打刀大小拵	江戸時代	

番号	品名	時代	所蔵
17	黒蠟塗鞘打刀大小拵	江戸時代	日本美術刀剣保存協会 鳥取県立博物館
18	黒塗鞘打刀拵	江戸時代	
19	黒蠟塗鞘打刀拵	安土桃山時代	
20	研出鮫殿中鑑打刀拵	江戸時代	
21	黒蠟鞘家紋景蒔絵鞘打刀拵	江戸時代	
22	茶塗青貝散銀桜花象嵌鞘合口拵	江戸時代	
23	木地竹篠刻銀線象嵌鞘脇差拵	江戸時代	
☆	因幡東照宮奉納飾太刀拵 ☆		
24	玉纏太刀式の太刀拵	江戸時代	樗谿神社
25	第一太刀式の太刀拵	江戸時代	樗谿神社
26	筋剣(飾太刀)拵	江戸時代	樗谿神社



拵の美展

### イ 武家・学者の書—石谷コレクション—

会期 昭和62年8月23日(日)～9月23日(水)

当館が所蔵する「石谷コレクション」(昭和54年石谷貞彦氏(智頭町)寄贈)には、貴重な江戸時代の書・画が含まれているが、今回はその中から、著名な武家・学者などの書を展示、紹介した。

### 出品目録

※印は江戸時代外

番号	資料名	法量 (cm)	番号	資料名	法量 (cm)
※1	伝後深草天皇 仮名消息	31.7×72.0	11	戸田茂睡 詠草 いつかたに・秋の山	32.5×46
※2	伏見天皇御歌集断簡(広沢切)	27.8×4.7	12	木下長嘯子 歌入消息	34.5×66.3
※3	頼阿法師 古今集卷第二十断簡(四半切)	25.0×16.6	13	細川三斎 消息	15.5×90.0
※4	楠木正儀・河野辺駿河守 細川武藏守頼之 応安七年勘過状	各29.3×43.8	14	天海僧正 消息 脇坂淡路守宛	32.1×53.4
※5	大内義隆 消息	26.8×36.8	15	即非 文殊大師 画賛	94.0×36.1
※6	三条西実隆 短冊(題 夏深草)	5.2×34.7	16	徳川秀忠 消息 池田新蔵宛	16.8×42.4
※7	伝心敬僧都 連歌	23.0×36.7	17	池田光政 消息	30.7×45.0
8	佐川田昌俊 歌入消息	27.4×38.8	18	山鹿素行 尺牘	31.0×50.0
9	後水尾天皇 詠海上月和歌	28.9×45.5	19	大石良雄 消息 かる宛	14.0×51.3
10	元政上人 和歌短冊(題祝よもの海)	36.2×5.7	20	松浦鎮信 消息	30.0×42.7

番号	資 料 名	法量 (cm)	番号	資 料 名	法量 (cm)
21	新井白石 書状	15.8×42.6	39	大槻磐溪 七言絶句	127.9×31.9
22	白河楽翁 和歌 ひとの親と	79.5×34.0	40	藤田東湖 楠公七言律詩	133.6×40.4
23	三条實萬 和歌短冊(題橋)	36.3×5.5	41	河野鉄兜 五言詩	157.6×41.1
24	藤原愷窩 四景我有論草稿	27.0×42.6	42	山田方谷 七言詩	137.5×31.7
25	林道春 七絶短冊(題冬月)	36.2×5.5	43	田能村直入 元旦試筆詩語	106.1×57.9
26	中村楊斎 楷書 五言律詩	23.7×31.5	44	小野湖山 五言詩	137.8×53.1
27	梁田蛭巖 七言詩	100.7×26.8	45	前原一誠 七言絶句	139.1×31.4
28	龍草廬 一行書	135.0×26.0	46	荷田東満 東海道日記	各16.6×46.2
29	龍草廬 一行書	127.3×26.4	47	平田篤胤 一行書	136.0×28.0
30	中井履軒 五言絶句	130.8×29.7	48	谷川士清 詠草	15.8×32.6
31	西依成斎 対聯	各130.7×18.4	49	梨木祐之 権中納言 藤原公通文写	31.0×64.5
32	秋山玉山 玉門関詩	134.2×28.5	50	静の舎美樹 歌二首	32.5×45.0
33	柴野栗山 五言絶句	127.0×28.6	51	橘千蔭 桜をよめる歌	85.5×34.0
34	武元登々庵 七言絶句	122.5×27.8	52	加茂季鷹 和歌	各32.0×44.5
35	佐藤一斎 七言絶句太公望	109.8×36.7	53	香川景樹 和歌懐紙	35.5×51.0
36	中島棕隠 七言詩	129.6×28.6	54	揖取魚彦 賀歌	30.7×43.5
37	梁川星巖 七言詩	135.1×31.6	55	八田知紀 和歌よしの山	124.5×28.0
38	安積良斎 墨水七言律詩	125.3×36.1	56	飯田年平 長者原長歌	132.5×98.5

#### ウ 鳥取民芸の父・吉田璋也

会期 昭和62年9月29日(火)～10月18日(日)

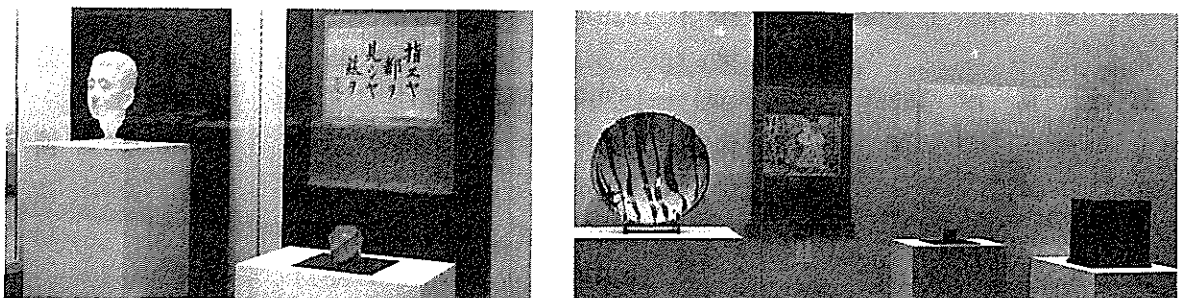
大正時代の終わりから昭和初期にかけて、柳宗悦らが中心となって庶民の日用品の良さを見直す運動―「民芸運動」―が起こり、当時失われつつあった地方の産物を再興させた。

吉田璋也(1898～1972)は、鳥取においてこの運動を推進し、やきもの、木工、和紙等の民芸品を育ててきた。

この展覧会では、鳥取民芸生みの親である吉田璋也の交友や業績について写真などで紹介するとともに、民芸品を展示して、吉田璋也と民芸に対する認識をも深めていただいた。

#### 展示内容

- 1 吉田璋也の生涯―写真パネルと交友のあった人たちの作品を展示。
- 2 民芸運動の実践―初期民芸協団員の新作民芸品を展示。
- 3 ウィリアム・モリスの文献―吉田璋也収集のモリスの文献を展示。
- 4 文化財の保護―鳥取砂丘、仁風閣などの文化財保護運動についてパネルで紹介。
- 5 著書・原稿―民芸入門などの著書やその原稿を展示。



吉田璋也展

(4) 近代美術展示室(374㎡)

鳥取県ゆかりの洋画家の代表的な作品を、テーマを定めて紹介した。

ア 前田寛治素描100点展

会期 昭和62年6月6日(土)～6月28日(日)

当館では、郷土を代表する洋画家・前田寛治の作品や資料の収集に努め、定期的にその業績について紹介しているが、今回は、大作の下絵的素描やメモ書きされた素描など117点を展示し、前田寛治の知られざる魅力を紹介した。

なお、展示会場で2回にわたって、ミュージアム・コンサートを開催した。



前田寛治 素描100点展

イ 砂丘社のひとびと I

会期 昭和62年7月7日(火)～8月30日(日)

「砂丘社」は、大正9年に、倉吉中学校(現倉吉東高)の中井金三をはじめ前田寛治、河本緑石、前田利三、増田英一らを中心に結成された芸術・文化団体で、展覧会や音楽会を開催して新しい芸術・文化の紹介に努めるとともに、芸術作品の創作に若い情熱を注いだ。この「砂丘社」のメンバーの作品を展示して、その活動の一端を紹介した。

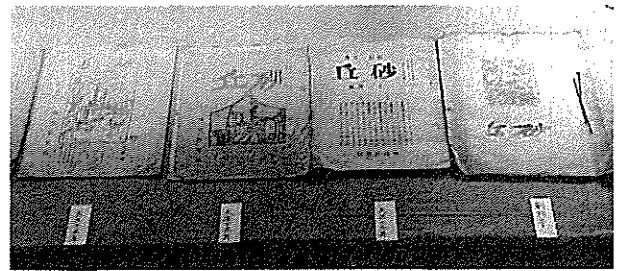
出品目録

番号	作 品 名	制作年	大きさ (cm)	所 蔵
<b>中 井 金 三</b> 1883年(明治16年)～1969年(昭和44年)				
1	自 画 像	1953年	45.7× 38.1	倉 吉 博 物 館
2	自 称 キ リ ス ト	1908年	60.8× 45.7	
3	河 岸	1910年	130.6×162.1	
4	大 山 滝 雪 景	1916年	60.8× 80.5	鳥 取 県 立 博 物 館
5	小 鴨 河 原	1919年頃	50.1× 65.5	倉 吉 博 物 館
6	橋 津 風 景	1920年	80.5×116.8	〃
7	鳥 の あ る 静 物	1929年	45.7× 60.7	〃
8	パ ラ		52.5× 45.5	鳥 取 県 立 博 物 館
<b>前 田 寛 治</b> 1896年(明治29年)～1930年(昭和5年)				
1	自 画 像	1925年頃	45.5× 33.3	鳥 取 県 立 博 物 館
2	子 供	1921年	33.5× 45.5	
3	ダ リ ヤ	1922年頃	60.8× 50.2	
4	子 供(子 守)	1920年	23.5× 33.2	

番号	作 品 名	制 作 年	大 き さ (cm)	所 蔵	
5	麦 わ ら 帽 子 の 子	1920年頃	23.7× 33.2	鳥 取 県 立 博 物 館 〃	
6	子 供	1922年	44.5× 59.5		
7	花 と 子 供 等	1921年	80.5×117.0		
8	立 て る 子 供	1922年	117.0× 80.5		
9	少 女	1928年	21.9× 16.0		
10	ふ た り の 子 供	1929年頃	23.8× 33.0		
11	子 供 の 顔	1929年	23.0× 16.0		
12	海	1929年	18.0× 25.5		
13	ス ケ ッ チ ブ ッ ク				
河 本 緑 石 1897年 (明治30年) ~1933年 (昭和8年)					
1	砂 丘 社 の 歌(軸)				
2	砂 丘 社 の 歌(軸)				
3	自 画 像	1925年頃	54.0× 40.5		
4	病 気 の 図	1925年頃	46.0× 60.5		
5	作 品	1925年頃	33.5× 45.0		
6	作 品	1925年頃	33.0× 45.0		
7	農 高 入 口		63.0× 53.0		
8	俳 画				
9	俳 画				
10	俳 画				
11	俳 画				
12	詩集 夢の破片、大空放哉伝、自筆 砂丘創刊号、香花集				
13	ハガキ (前田寛治、宮沢賢治、種田山頭火)				
14	短冊 (尾崎放哉、荻原井泉水、種田山頭火)				
前 田 利 三 1902年 (明治35年) ~1979年 (昭和54年)					
1	自 画 像	1952年	33.5× 23.7		
2	若 き 妻	1936年	33.0× 24.0		
3	神 戸 寺 池 町	1938年	31.8× 40.5		
4	女	1940年	27.0× 34.0		
5	神 戸 花 隈	1951年	24.5× 33.5		
6	芝 居 見 物	1950年	24.5× 34.0		
7	ラ ン プ と 古 地 図	1976年	73.0× 54.0		
8	夏	1977年	60.5× 50.0		
9	鳥 取 城 跡	1951年	41.6× 53.5		
10	御 来 屋 大 山	1951年頃	50.0× 60.5		
増 田 英 一 1901年 (明治34年) ~					
1	自 画 像	1940年	91.0× 72.8		
2	花	1922年	33.4× 24.3		
3	新 宿 駅 付 近	1922年	24.0× 33.0		
4	富 久 町 風 景	1922年	45.3× 53.0		
5	板 橋 付 近	1922年	24.0× 33.0		



番号	作 品 名	制作年	大きさ (cm)	所 蔵
6	戸 山 ケ 原	1922年	50.0× 65.0	
7	赤 碕 風 景	1929年	53.3× 65.0	
8	海	1922年	72.8× 91.0	
9	子 供	1930年頃	33.0× 24.0	
10	室 内	1930年頃	24.0× 33.0	
11	木 版 画 集			



砂丘社のひとびと I

#### ウ 砂丘社のひとびと II

会期 昭和63年1月5日(火)～3月13日(日)

大正9年に倉吉で結成された芸術団体「砂丘社」は、活発な活動を展開するが、大正15年には、鳥取で恩田孝徳、浜田重雄、川上貞夫らが「鳥取砂丘社」を結成し、倉吉の「砂丘社」に参加して郷土の文化啓蒙に努めるとともに、芸術作品の創作に情熱を注いだ。

「鳥取砂丘社」のメンバーの油彩、水彩、素描等を展示して、その活動の一端を紹介した。

#### 出品目録

番号	作 品 名	材 質	制作年	大きさ (cm)	所 蔵
恩 田 孝 徳 1901年(明治34年)～1960年(昭和35年)					
1	花	水彩・紙	1928年	32.0× 24.5	鳥 取 県 立 博 物 館 〃
2	静 物(ダ リ ヤ)	〃	1928年	76.5× 55.5	
3	塩 釜 神 社	〃	1931年	27.5× 36.0	
4	曇 日	〃	1930年	64.5× 99.0	
5	雪 の 谷 川 岳	〃	1935年	54.0× 74.0	
6	風 景(樹)	〃	1928年	24.3× 32.0	
7	都 会 風 景	〃		25.2× 33.0	
8	白 樺 湖	〃	1935年頃	49.0× 66.0	
9	へ ル ン 旧 居	〃	1939年	25.0× 33.0	
10	風 景(青谷町桑原)	〃	1946年	27.0× 36.5	
11	川 上 貞 夫 像	〃		36.2× 26.3	

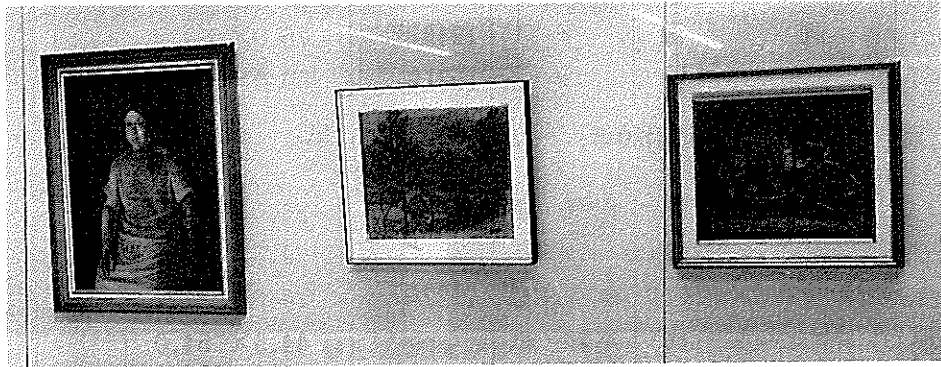
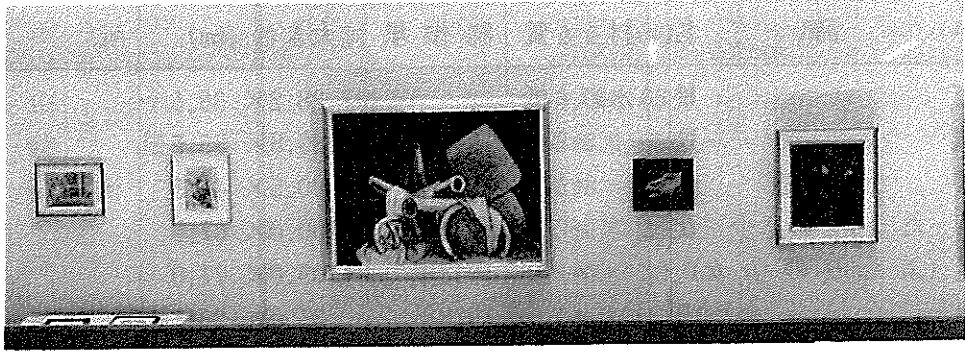
番号	作 品 名	材 質	制 作 年	大 き さ (cm)	所 蔵
12	海 景	水彩・紙		28.2× 36.5	
13	秋 景	〃	1946年	36.8× 55.5	
14	富 士 遠 望	〃	1946年	30.5× 45.5	
15	ふ た り の 少 女	〃	1929年	100.0× 67.0	
16	夏 (ふたりの少女)	〃	1943年	109.0× 77.0	
17	叡 山	〃	1928年	35.0× 25.5	
18	青 谷 風 景	〃	1941年	56.5× 76.5	
19	塔 の あ る 風 景	〃	1941年	56.0× 76.0	
20	犬 吠 崎 風 景	〃	1932年	53.0× 76.0	
21	婦 人 像	〃		67.0× 51.0	
22	自 画 像	〃	1943年	76.0× 59.0	
23	静 物	〃	1931年	50.0× 66.0	

川 上 貞 夫 1897年 (明治30年) ~1977年 (昭和52年)

1	男 の 像	鉛筆・紙		25.0× 17.5	
2	男 の 像	〃		24.5× 17.5	
3	自 画 像	油彩・キャンバス	1922年	26.0× 20.5	
4	静 物	水彩・紙		44.5× 54.0	
5	静 物	油彩・キャンバス		49.0× 60.0	
6	風 景	〃		49.0× 60.0	
7	T 子 像	〃	1929年	89.0× 71.0	
8	花 (ダリヤ)	〃	1922年	52.0× 44.5	
9	馬	〃	1936年	17.5× 23.0	
10	大 砲	〃	1932年	95.5× 128.5	鳥 取 県 立 博 物 館
11	風 景	水彩・紙		27.5× 20.0	
12	風 景	〃		21.5× 30.5	
13	風 景 (鳥取大火後)	鉛筆・紙	1952年	14.0× 20.0	
14	風 景 (鳥取大火後)	〃	1952年	9.5× 14.0	

浜 田 重 雄 1900年 (明治33年) ~1988年 (昭和63年)

1	浜 田 少 年 (久米福衛作)	油彩・キャンバス	1915年	80.5× 61.0	鳥 取 県 立 博 物 館
2	襟 巻 し た 女	〃	1929年	53.0× 45.5	〃
3	青 年 像	〃	1929年	90.9× 72.7	〃
4	婦 人 像	〃	1929年	80.3× 65.2	〃
5	婦 人 像	〃	1929年	90.9× 72.7	〃
6	静 物	〃	1929年	65.2× 80.3	〃
7	樹 木	〃	1932年	91.0× 72.5	県 立 鳥 取 図 書 館
8	石 膏 の 静 物	〃	1933年	90.9× 72.7	鳥 取 県 立 博 物 館
9	果 物 な の 静 物	〃	1934年	72.2× 90.9	〃
10	男 の 像	〃		116.7× 90.9	〃
11	婦 人 像	〃	1936年	90.5× 72.5	県 立 鳥 取 図 書 館
12	窓 辺 の 静 物	〃	1936年	116.7× 90.9	鳥 取 県 立 博 物 館
13	男 の 像	〃		90.5× 72.5	県 立 鳥 取 図 書 館



砂丘社のひとびとⅡ

## 2 特別展

### (1) 狩野派の名宝 ～400年の歴史を一堂に～

会 期 昭和62年 4月25日(土)～ 5月24日(日)

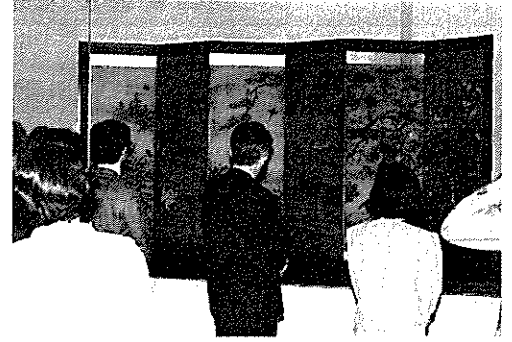
会 場 第1展示室、第2展示室、第3展示室

主 催 鳥取県教育委員会 鳥取県立博物館

後 援 鳥取県各市町村教育委員会

入館料 一般600円(500円)、高校生400円(300円)、  
小・中学生200円(100円) ( )は団体料金

狩野派は、室町時代中期、それまでの水墨画に新たに装飾性や大和絵の手法をとり入れた狩野正信によって始まるが、こうした狩野派の発祥から明治時代に至るおよそ400年の主な展開と、あわせて鳥取藩の狩野派絵師であった沖家と根本家の作家の作品を取り上げ、近世日本文化の一端を紹介した。



特別展 狩野派の名宝

#### 関連行事

#### ア 特別講演会

期 日 昭和62年 5月2日(土)

演 題 狩野派について

講 師 大阪大学教授 武田 恒夫氏

#### イ 土曜講座(郷土の古美術・鳥取藩の狩野派絵師)

期 日 昭和62年 5月16日(土)

講 師 学芸課美術係長 小山 勝之進

#### 出品目録

番号	指定の別	資 料 名	点数	形 状	品 質	法量タテ×ヨコcm	所 蔵
1		狩野 正信 山水図 横川景三賛	1	掛 幅	絹本墨画淡彩	119.0×37.4	栃木 長林寺
2	重 文	伝狩野元信 果 子 図	2	〃	紙 本 淡 彩	各 39.3×42.9	東京国立博物館
3		狩野 之信 四季山水図屏風	2	六曲屏風一双	紙 本 墨 画	各154.5×344.5	
4		松栄 直信 四季花鳥図屏風	2	〃	紙 本 著 色	各144.3×351.4	山口県立美術館
5	重 文	狩野 永徳 仙人高士図屏風	2	〃	紙 本 墨 画	各155.0×361.4	京都国立博物館
6	重 文	狩野 山楽 龍 虎 図 屏 風	2	〃	紙本金地著色	各178.0×379.0	京都 妙心寺
7	重 文	狩野 内膳 豊国祭図屏風	2	〃	紙本金地著色	各167.5×365.0	京都 豊国神社
8		花下群舞図屏風	2	〃	紙 本 著 色	各149.3×352.7	神戸市立博物館
9		風流陣図屏風	2	〃	紙 本 著 色	各159.8×358.4	岡山県立博物館
10		狩野 山雪 龍 虎 図 屏 風	2	〃	紙 本 著 色	各162.0×362.0	
11	重 文	狩野 探幽 四季花鳥図襖	4	襖	紙本淡彩金泥引	各192.0×165.0	名古屋市(名古屋城)
12	重 文	〃 上洛殿天井絵	4	額	板 絵 著 色		名古屋市(名古屋城)
13		〃 桐 鳳 凰 図 屏 風	2	六曲屏風一双	紙本金地著色	各158.2×377.6	東京 サントリー美術館
14		〃 尾 長 鳥 図	1	掛 幅	絹 本 著 色	117.5×51.2	東京国立博物館
15		〃 富士山図 隠元賛	1	〃	紙本墨画淡彩	40.1×98.1	東京 板橋区立美術館
16		〃 三十六歌仙図	36	額	板 絵 著 色	各 58.7×36.8	鳥取 楞谿神社

番号	指定の別	資 料 名		点数	形 状	品 質	法量タテ×ヨコcm	所 蔵
17		狩野 探幽	探 幽 縮 図	2	卷 子	紙 本	天地12.8 13.8	京都国立博覧館
18		探信 守道	竜 田 川 図	1	掛 幅	絹 本 著 色	133.3×43.9	東京国立博物館
19		〃	浮世美人風俗図	3	〃	紙 本 著 色	各 72.2×31.4	東京 板橋区立美術館
20		〃	源氏物語(櫛)図	1	〃	絹 本 著 名		
21		久隅 守景	山 水 図	1	〃	紙本墨画淡彩	123.5×53.3	東京国立博物館
22		英 一蝶	朝 妻 舟 自画賛	1	〃	絹 本 著 色	37.4×56.9	東京 板橋区立美術館
23		〃	一休和尚醉臥図	1	〃	紙本墨画淡彩	33.1×42.1	〃 〃
24		木村香雪(模)	狩 野 山 楽 像	1	〃	〃		京都国立博物館
25		〃	狩 野 山 雪 像	1	〃	〃		〃
26		狩野 芳崖	悲母親音図(複製)	1	額		195.7×85.8	下関市立美術館
27		〃	懸 崖 山 水 図	1	掛 幅	紙 本 墨 画	87.8×52.7	〃
28		〃	柳 下 鐘 趙 図	1	〃	紙 本 著 色	106.8×48.9	〃
29		橋本 雅邦	蘇 武 図	1	〃	絹 本 著 色	154.0×72.3	〃
30		松本 楓湖	蒙 古 来 襲 図	1	〃	〃	138.0×68.0	
31		〃	平 治 の 乱 図	1	〃	〃	131.5×70.0	
32	県 文	沖 探容	富 士 見 西 行 図	3	〃	〃	各106.5×33.6	
33		〃	龍 琴 棋 書 画 図	3	〃	〃	各113.6×47.8	
34		〃	秘 曲 伝 受 図	2	〃	〃	各107.6×50.6	
35		〃	揚 由 去 来 芦 雁 図	3	〃	絹本墨画淡彩	各113.3×45.3	
36		〃	山 水 図	1	〃	絹 本 著 色	109.5×46.7	
37		〃	芳 埜 山 春 景 図	1	〃	〃	50.2×87.4	
38		沖 一峨	因 州 候 庭 園 図	1	〃	〃	113.9×44.5	
39		〃	草 廬 に 三 顧 図	1	〃	〃	43.0×70.0	鳥取県立博物館
40		〃	業 平 東 下 図	5	〃	〃	各115.0×50.2	
41		〃	四 季 草 花 図	2	〃	〃	各 96.9×34.3	
42		〃	家 翁 西 京 舞 妓 図	1	〃	〃	205.0×52.7	
43		〃	黄 蜀 葵 小 禽 図	1	〃	〃	118.0×49.8	
44		〃	桔 梗 に 鈴 虫 図	1	扇 面	紙 本 著 色		
45		〃	水 禽 図	3	掛 幅	絹 本 著 色	各107.7×40.6	
46		〃	芙 蓉 に 群 鴨 図	2	〃	〃	各103.0×40.0	
47		〃	瓢 箪 ・ 旭 日 波 涛 図	1	衝 立	紙 本 著 色	131.0×81.5	
48		〃	寒 山 拾 得 図	2	掛 幅	紙本墨画淡彩	121.5×50.4	
49		〃	日 出 老 松 遊 鶴 図	1	〃	絹 本 著 色	110.0×64.5	
50		〃	遊 亀 図	1	〃	〃	109.0×44.0	
51		〃	騎 馬 武 者 図	1	〃	紙 本 著 色	100.2×53.5	
52		〃	写 生 粉 本 図 卷	3	卷 子	〃		
53		〃	鳥 類 写 生 図 卷	1	〃	〃		
54		〃	魚 貝 類 写 生 図 卷	1	〃	〃		
55		〃	馬 画 図 卷	1	〃	〃		
56		池田 慶行	沖 一 峨 像	1	掛 幅	紙 本 墨 画	94.5×36.8	
57		沖 九卓	黄 石 公 ・ 張 良 図	1	〃	絹本墨画淡彩	70.5×85.4	
58		〃	春 野 草 花 図	1	〃	絹 本 著 色	52.0×70.0	

番号	指定の別	資 料 名		点数	形 状	品 質	法量タテ×ヨコ cm	所 蔵
59		根本 幽峨	高 楼 定 家 卿 図	3	掛 幅	絹 本 著 色	各104.3×39.4	
60		〃	琴 棋 書 画 図	3	〃	〃	各140.2×69.8	
61		〃	淡青緑山水人物図	1	〃	〃	141.5×69.7	
62		〃	百 大 黒 図	1	〃	〃	115.0×72.2	
63		〃	女 酒 宴 図	1	〃	〃	48.0×71.0	
64		〃	四 条 夕 涼 図	1	〃	〃	118.5×55.2	
65		〃	四 季 耕 作 図 屏 風	2	六 曲 屏 風 一 双			
66		〃	山 水 図 屏 風	2	〃			
67		〃	粉 本 ・ 模 本 図 卷	4	卷 子			京都国立博物館

(2) 恐竜と鳥獣の歴史～興亡を繰り返す動物たち～

会 期 昭和62年8月1日(土)～8月30日(日)

会 場 第1展示室、第2展示室

主 催 鳥取県教育委員会 鳥取県立博物館

後 援 鳥取県各市町村教育委員会

入館料 一般500円(400円)、高校生300円(200円)、  
小・中学生150円(100円) ( )は団体料金

長い地質時代をとおして全盛を極めた恐竜と、その後  
に現れた爬虫類・鳥類・哺乳類たちの興亡の歴史と  
現状を解説し、環境の変化に適応できないで滅びか

けている動物たちのことや、人間と自然のかかわりについてその一端を紹介した。

関連行事

ア 特別講演会

期 日 昭和62年8月8日(土)

演 題 恐竜の世界一進化とその絶滅一

講 師 大阪市立自然史博物館顧問 千地 万造氏

イ ビデオ映写会

期 日 昭和62年8月18日

内 容 「地球の歴史」など

主な展示資料

○化石又はそのレプリカなど

●現世の生物標本

1 水中から陸上へ

○ボスリオレピス

○エリオプス

○アスピドリクス

○カラウルス

○オステオレピス

○ブラジロサウルス

○ファレオダス

●オオサンショウウオの全身骨格

○レピトテス

○メソサウルス

●カワヤツメ

●イノストランケビア頭骨

●シーラカンス縮小模型

2 恐竜の全盛

○アロサウルス頭骨

○ホメオサウルス

○ステゴサウルス全身骨格

○シールロサウルス足跡

○プロバクトロサウルス全身骨格

○カルノサウルス足跡

○プロバクトロサウルス全身復原模型

○タルボサウルス頭骨

○プロトケラトプスの卵

○恐竜の歯

3 生き残った爬虫類

○スサガメ

●コモドオオトカゲ

○ワニ頭骨

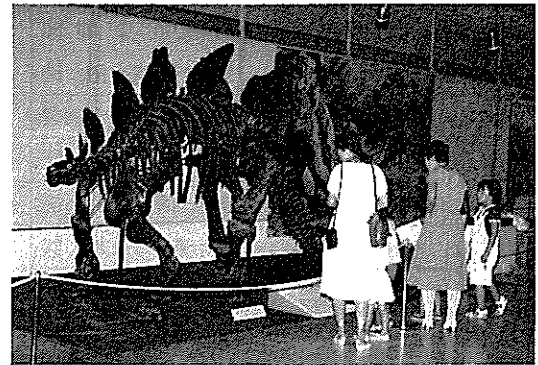
●メガネカイマン

●アルダブラゾウガメ

●アミメニシキヘビ

●アカウミガメ

●ボールニシキヘビ



特別展 恐竜と鳥獣の歴史

- ナイルワニ
- 4 羽毛と翼による適応
  - シンチョウ復原模型
  - プロトプテルム全身骨格
  - 鳥の足
    - キングペンギン
    - フンボルトペンギン
    - ヤマセミ
    - オシドリ
- 5 栄える<sup>ほ</sup>哺乳類
  - アカカンガルー
  - デスマスチルス全身骨格
  - デスマスチルス臼歯
    - アルマジロ
    - ハリネズミ
    - センザンコウ
    - モグラ
    - ウマの頭骨
    - インドゾウ全身骨格
- 6 滅びゆく動物
  - タンチョウ
  - コウノトリ
  - ワオキツネザル
  - サイイグアナ
  - ニホンカモシカ
  - マライヤマネコ
  - ミカドキジ
  - ニホンジカ
- クサガメ
  - エミユウ
  - ヒクイドリ
  - マガン
  - ヤマシヨウビン
  - フウチョウ
  - 鳥の羽毛標本
- ナウマンゾウ全身骨格
- ナウマンゾウ臼歯
- マンモスの下顎骨と臼歯
- ステゴマストドン臼歯
  - ゴマフアザラシ
  - オットセイ
  - オットセイの全身骨格
  - オオコウモリ
  - ムササビ
- ヤマネ
- ニホンカワウソ
- イヌワシ
- オジロワシ
- ニホンザル
- ツキノワグマ
- ホンドキツネ



(3) 開港への序曲～ペリー来航と日本の開国

会 期 昭和62年 9月6日(日)～9月23日(水)  
 会 場 第1展示室、第2展示室、第3展示室  
 主 催 社団法人霞会館 鳥取県立博物館  
 後 援 鳥取県各市町村教育委員会  
 入館料 一般300円(250円)、高校生200円(150円)、  
 小・中学生100円(50円)

( ) は団体・前売料金



特別展 開港への序曲

ペリー来航は、我が国が国際社会に門戸を開く第一段階であった。今日、我が国をとりまく国際情勢は厳しく第三の開国を迫られているとあってよい。

ペリーが率いるアメリカ艦隊が浦賀に現れて開港を要求、ついに和親条約を結び、我が国は初めて国際社会に仲間入りをした。この時の様子を、全国各地から集めた資料を展示して紹介した  
 関連行事

ア 特別講演会

期 日 昭和63年 9月12日(土)

演 題 開国と明治維新

講 師 北海道大学教授 田中 彰氏

主な展示資料

品 名	所 蔵	品 名	所 蔵
● 彼等は来た		ディアナ号の大砲	靖国神社遊就館
御物喜永六年露国使節水師提督布恬延上陸長崎之図	宮 内 庁	天山流百目砲	松浦資料博物館
蒸気船図	(財)水府明德会彰考館	阿部正弘所用具足	備後護国神社
黒船浦賀入港之図	会津武家屋敷	阿部正弘所用陣羽織	福山市立福山城博物館
ペリー来朝之海岸防備之図	大垣市立図書館	フランス製胸甲騎兵用甲冑	靖国神社遊就館
井伊家松平肥後守陣営図	〃	青山忠良所用短筒	
合衆国書翰和解	国立国会図書館	ペリーの短銃(コルト・ネービーモデル)	靖国神社遊就館
弘化3丙午歳渡来墨夷軍艦図	(財)水府明德会彰考館	三浦房総御固図	神奈川県立博物館
丙午浦港入津記図	鳥取県立博物館	六箇国海岸御固行列之図	下関市長府博物館
弘化3年浦賀渡来アメリカ軍艦之図	山内神社宝物館	姫路藩鉄砲洲警衛之図	姫路城管理事務所
安政2年アメリカ船石巻渡来図巻	仙台市博物館	御備場絵図	神奈川県立博物館
魯西亜人行列次第	神奈川県立博物館	江戸防備諸砲台之図絵巻	船橋市西図書館
ロシア使節書翰和解	〃	異国船防禦手當人数並武器御届・木下備中守	神奈川県立博物館
長崎奉行所(西役所)図面	〃	本牧日記 御用札 未状控	鳥取県立博物館
夷船浦賀退港ノ件通達異国船調伏ノ儀	国立国会図書館	津山藩江戸日記嘉永六癸丑年	津山市立津山郷土館
諸家上書之写	神奈川県立博物館	天保山諸家警備之図	〃
● 国難未曾有		京拱近海防禦ノ事覚 三條實萬筆	国立国会図書館
ペリー艦隊の砲丸	下関市長府博物館	長崎港外国船碇泊之図	(財)鍋島報効会
ディアナ号のロシア軍艦旗	戸田村立造船郷土資料博物館	長崎湊内外惣見取略図	〃

品名	所蔵	品名	所蔵
洋式大砲設計図	佐賀県立図書館	堀田正睦所用半円方位盤	
隠倉銃(徳川幕府講式所刻印)	靖国神社遊就館	考明天宸宸筆和歌懐紙	尚古集成館
銃隊式訓練沿革図	〃	近衛忠烈 添状	〃
夷船渡来ノ節取扱方文武奨励等幕府論達写	国立国会図書館	三條實萬書「天攘無窮」	梨木神社
阿蘭陀流砲術図	山内神社宝物館	一条忠香書 和歌「禁中星月御台立秋七夕」	
宣旨写柳原光愛諸国寺院梵鐘鑄造大砲小銃ノ件	国立国会図書館	島津斉彬書翰集	尚古集成館
夷船渡来ニ付廿二社、基外十五六社祈願ノ件覚	〃	佐々間象山手翰	
● 国開かれて		佐々間象山建白書	佐倉厚生園
米艦来航之図	吉備津神社	吉田松陰建白書	
ペリー渡来絵図帖交屏風	東京大学史料編纂所	佐々間象山・吉田松陰御答簡条書	国立国会図書館
浦賀紀行	神奈川県立博物館	地震・炎旱等ニ付奉幣使・年号改元ノ事	〃
米利幹人上陸、横浜応接所の光景	横浜開港資料館	東都持○長者鑑(波濤新聞綴じ込み)	
日米和親条約写	国立国会図書館	大坂持丸長者鑑(波濤新聞綴じ込み)	
『The Battle of BUENA VISTA』		安政元年の江戸火災(波濤新聞綴じ込み)	
天体運行儀	広島県立福山誠之館高等学校	東海道筋並上方筋大津波地震之事(波濤新聞綴じ込み)	
六分儀	〃	安政元年異国船渡来図(波濤新聞綴じ込み)	
献上品目録	神奈川県立博物館	嘉永6年三浦房総御園図(波濤新聞綴じ込み)	
嘉永7年2月10日武州金沢横浜にて亜米利加人記録	津山市立津山郷土館	大沢賢介筆久里浜陣営図(波濤新聞綴じ込み)	
相模取組表	神奈川県立博物館	吉原地震焼亡之図(波濤新聞綴じ込み)	
川柳	〃	蝦夷日記	
ペリー提督寄贈の洋酒ビン	函館市立函館博物館	向山源太夫書状 おみつ宛	
亜墨利加船松前箱館湊江入津之図	函館市立函館図書館	丙辰日記	
安政元松前湊魯西亜當館之図写	(財)鍋島報効会	● 黒船来航譜	
ウイリアムズの英文を羅森が漢訳した扇面		癸丑墨夷入津図附船人物図	鳥取県立博物館
米使ペリー一行の撮影せる松前勘解由		相州浦賀北亜米利加船入津絵巻	下関市立長府図書館
下田之図	神奈川県立博物館	北亜墨利加蒸気船渡来図	津山洋学資料館
「ペリー提督日本遠征記」	〃	浦賀黒船上陸図	靖国神社遊就館
プチャーチン所用双眼鏡	戸田村立造船郷土資料博物館	黒船来航絵巻	
日露和親条約写	国立国会図書館	合同舶入相秘記	福井市郷土歴史博物館
魯艦遭難絵巻写	戸田村立造船郷土資料博物館	甲寅亜夷入津記	鳥取県立博物館
ヲロシア献上船図	函館市立函館図書館	異国船渡来図	
長崎市中之商人ヨリ米状スターリングの件	国立国会図書館	黒船来航絵巻(亜墨利加船渡来横浜の真景)	神奈川県立博物館
幕府御達書		黒船来航図巻	埼玉県立博物館
献六策	神奈川県立博物館	甲寅長崎江魯夷入津図	鳥取県立博物館
外国一件建白書大広間詰	佐倉厚生会	魯西整儀写真真鑑	神戸市立博物館
阿部伊勢守へ内談書案	国立国会図書館	米国使節ペリー渡来絵図写生帖	東京大学史料編纂所
阿部正弘書「仁義」			
青山忠良書「緑亀」	青山会		
堀田正睦書 和歌短冊			